

令和7年度 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議



日 時:令和7年10月31日 10:00～
会 場:市役所本庁舎3F対策室1

- 1 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について
 - (1) 会議設置の趣旨
 - (2) 会議の進め方
- 2 昨年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画について
 - (1) 昨冬の振り返り
 - (2) 今年度の除雪計画
- 3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について
 - (1) 検証会議での提言
 - (2) 新潟市の対応状況
- 4 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の今後について
 - (1) 令和8年度以降の進め方(案)

1 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について

1/22

(1) 会議の設置主旨について ※令和5年11月14日設置

新潟市除雪体制等検証会議(R3～R4)の3つの提言

(1) 除排雪の効率化

①早期道路交通の確保 ②地域ぐるみの除雪体制の構築 ③国・県との連携強化

(2) 市民広報の積極的な展開

①大雪は災害であることの理解・浸透 ②大雪時の行動変容を促す ③除雪体制の市民周知

(3) PDCAサイクルの構築

社会情勢や大雪災害発生状況の変化にも対応し、常に、予算や人員等の制約条件を踏まえた最適な除雪体制とするため、「除排雪の効率化」および「市民広報の積極的な展開」に着目し、**総合的な検証を継続すること。**

◇会議の目的

・新潟市では、新潟市除雪体制等検証会議での提言を踏まえて、毎年の道路除雪について、『除排雪の効率化』や『市民広報の積極的な展開』に着目した総合的な検証を継続している。

・本会議では、**新潟市が実施している毎年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について、外部の有識者に、広く意見を求め相互共有することで、持続可能な除雪体制への改善につなげていくことを目的とする。**

◇構成員

- ・国立研究開発法人 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター ・(一社)新潟市建設業協会
- ・(一社)新潟市道路保全協会 ・新潟商工会議所 ・新潟県トラック協会 ・新潟交通株式会社
- ・新潟交通観光バス株式会社

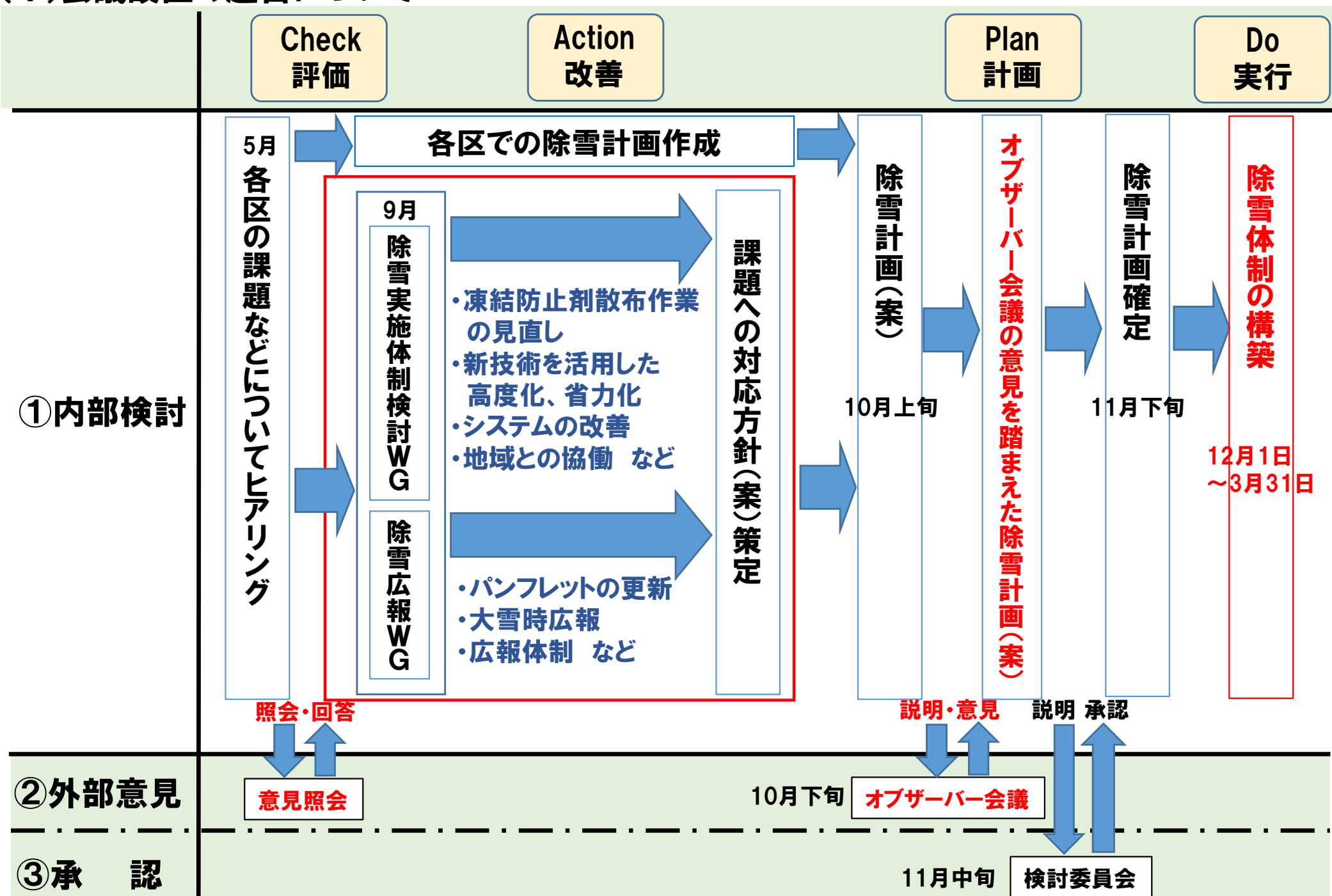
◇任 期

令和5年11月14日～令和8年3月31日 ※開催日からとする。

1 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について

2/22

(1) 会議設置の趣旨について



(2)会議の進め方について

○オブザーバー会議のスケジュール

予 定	内 容
◇令和5年秋 第1回オブザーバー会議 11月14日	・会議の進め方について ・検証会議の提言について振り返り ・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について意見照会
○令和6年春 オブザーバー意見照会 6月13日	・令和5年度除雪対応についての意見照会(書面) (事務局でとりまとめて構成員に共有)
◇令和6年秋 第2回オブザーバー会議 11月8日	・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について意見照会
○令和7年春 オブザーバー意見照会 6月18日	・令和6年度除雪対応についての意見照会(書面) (事務局でとりまとめて構成員に共有)
◇令和7年秋 第3回オブザーバー会議 ※今回 10月31日	・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について意見照会 ・令和8年度以降の進め方について

(2) 会議の進め方について

○第3回オブザーバー会議（10／31）※本日

・事務局から以下について説明

（1）新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について

① 会議の設置の趣旨

② 会議の進め方

（2）去年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画について

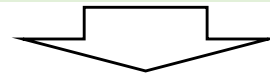
① 去年の振り返り

② 今年の除雪計画

（3）新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

① 検証会議での提言

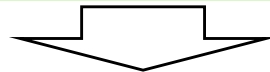
② 新潟市の対応状況



○オブザーバー意見の提出（11／14）

会議後2週間程度を目途

- ・後日、会議で事務局から示された新潟市の取組みについて構成員ごとに意見を提出。（アンケート形式）

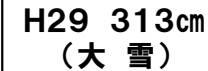


○オブザーバー意見のとりまとめ（11／21）

11月中の公表目標

- ・事務局でオブザーバー意見の概要版を作成し、提出されたアンケートと併せて市HPで公表する。（アンケートの記載者は非公表）

◇ 年度別累計降雪量の推移(市内8区の平均累計降雪量 ※各消防署による観測データ)



R2 234cm
(大雪)

R6 152cm
(平年雪)

R元 4cm
(小雪)

・2月7日に「顕著な大雪に関する
気象情報」発表(新潟地方気象台)

「新潟」で7日20時までの
3時間に26cm、
「松浜(新潟空港)」で7日21時
までの3時間に30cmの降雪を
記録(いずれも観測史上最大)

・年間降雪量の半分程度が1度の寒波によるもの

⇒気候変動に伴う降り方の極端化が明確に

• 2/5~2/8

市内8区平均79cm

秋葉区100cm、南区99cm

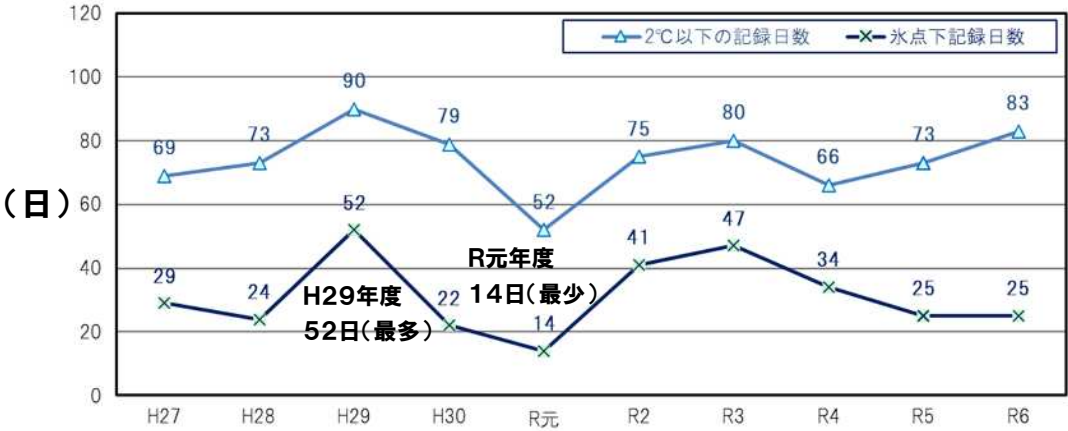
⇒24時間降雪量が50cmを超えたため、幹線道路を優先的に除雪する異常降雪時体制に移行

各区の累計降雪量

	単位	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	市平均	備考
R6年度	(cm)	191	94	114	172	232	172	95	153	152	①
R5年度	(cm)	102	68	79	99	124	116	48	98	92	②
R5比	(%)	187.3%	138.2%	144.3%	173.7%	187.1%	148.3%	197.9%	156.1%	165.7%	①÷②

(1) 昨冬の振り返り

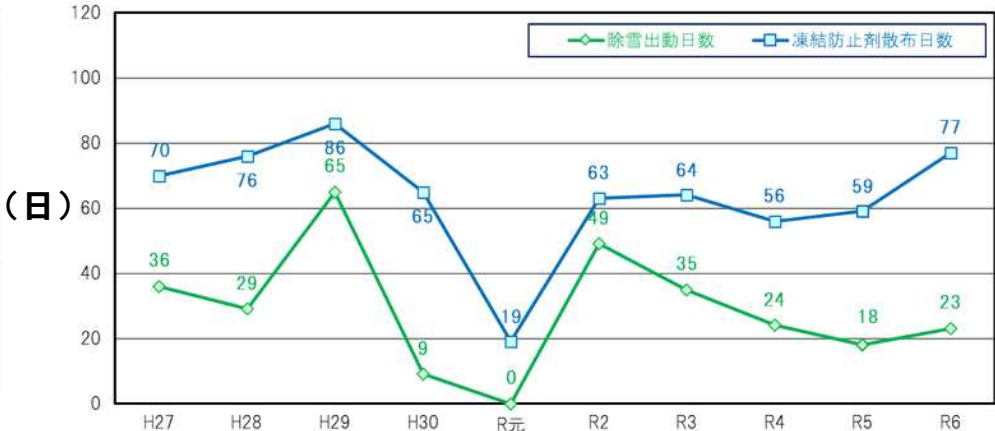
◇ 氷点下記録日数の推移(過去10年)



	単位	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
2℃以下の記録日数	日	69	73	90	79	52	75	80	66	73	83
氷点下記録日数	日	29	24	52	22	14	41	47	34	25	25

※ 気象庁新潟観測所（中央区）データによる。

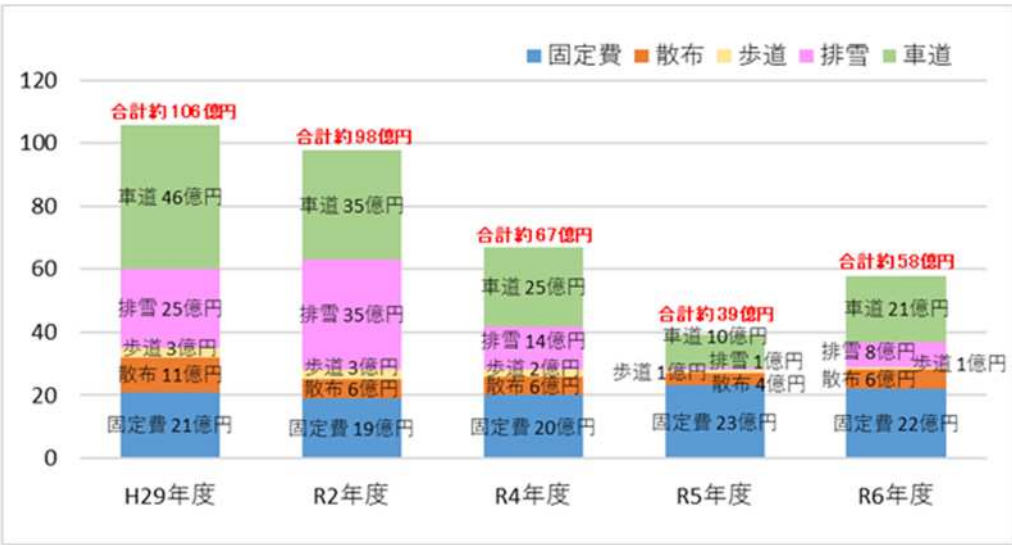
◇ 除雪出動日数と凍結防止剤散布日数の推移



	単位	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
除雪出動日数	日	36	29	65	9	0	49	35	24	18	23
凍結防止剤散布日数	日	70	76	86	65	19	63	64	56	59	77

※ 市内1箇所でも出動・散布があった日の合計日数。

◇ 除雪費(過年度との比較)



除雪費の内訳

	R5	R6
車道	10億円	21億円
排雪	1億円	8億円
歩道	1億円	1億円
散布	4億円	6億円
固定費	23億円	22億円
計	39億円	58億円

除雪出動日数
R5 18日 ⇒ R6 23日
凍結防止剤散布日数
R5 59日 ⇒ R6 77日

- ・年間の降雪量の半分程度が1回の寒波に集中し、それ以外の期間では降雪が少なかったものの、除雪の出動回数はR5に比べて多くなった。
- ・また、1回の寒波で短期集中的な降雪となったため、除雪目標の幅員の確保、堆雪した雪により、交通安全上必要な視距の確保が困難となったため、全区で排雪作業を実施した。

2 昨年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画について

7/22

(1)今年度の除雪計画

(別途配布資料:「令和7年度 新潟市冬期道路交通確保計画書(概要版)」にて説明)

(1) 検証会議の振り返りについて

H29年度の大雪を踏まえた様々な取り組み

- ① 除雪車運行管理システムの導入
- ② 新たな雪捨て場の確保
- ③ PRパンフレットの作成
- ④ 凍結防止剤散布の見直し
- ⑤ 市内部の除雪応援体制の確立



R3年1月市全域で短期間に集中的な大雪となり、10日間で150cmの降雪を記録
除雪作業が追い付かず、交通渋滞の発生
や公共交通の運休、物流の停滞など、市民
生活や経済活動に大きな影響を受けた



新潟市除雪体制等検証会議を設置し、
道路除雪に関する課題や対応について議論

【新潟市の除雪に関する課題】

- ・気候変動の影響から、数年に1度の大雪が発生
- ・大雪の年と小雪の年とで、降雪量に極端な差があるため、大雪に特化した体制の構築が困難
- ・市民広報において、降雪前に備えておくことや、降雪時の市の対応状況など、伝えきれていない
- ・大雪は災害であることの意識向上を促す必要

提言書(最終とりまとめ) 令和4年7月

1 除排雪の効率化

(1) 早期道路交通の確保

異常降雪時に排雪を行う際は、排雪基準に基づき、より効率的な除排雪作業を実施すること。また、地域の協力を得ながら除雪路線近隣に多くの雪置き場を確保することや、雪捨て場の渋滞を解消するためにも、多くの雪捨て場を確保すること。

(2) 地域ぐるみの除雪体制の構築

新潟市は、除排雪を効率的に実施し、市民は、出控えなどの生活の工夫を行い、事業者は在宅勤務や時差出勤など事業展開の工夫を行う等、新潟市と地域が一体となった除雪体制を構築すること。

(3) 国・県との連携強化

異常降雪時において、除排雪機械の応援や人員の応援などを迅速に体制構築できるよう相互の連携強化を求める。

2 市民広報の積極的な展開

(1) 大雪は災害であることの理解・浸透

大雪時には、新潟市の除雪体制では道路交通を確保するには長い時間がかかってしまう。この間は、交通渋滞や公共交通の運休等が予想されることを広報すること。あわせて、大雪に関しては災害意識が低いと思われるため、さまざまな手法を通じて市民の災害意識の向上を促すこと。

(2) 大雪時の行動変容を促す

テレワークの推進や休業・休校など外出自粛に繋げる市民広報を行い、行動変容を促すこと。

そのためには、道路の堆雪状況や降雪・積雪条件、除雪能力、社会条件等から大雪に対する対応力のレベルを設定し、そのレベルにあった除排雪や市民への行動変容が可能となるよう試行・検証を実施すること。

(3) 除雪体制の市民周知

新潟市の除雪体制について、パンフレットやリーフレットにより十分周知するよう努めること。大雪時には、市民の不安解消に向け、各種メディアを活用し継続的な除雪状況などの情報発信を行うこと。

3 PDCAサイクルの構築

今後、人口減少や予算減少、地球温暖化による大雪の局地化・激甚化等が想定される一方で、ICTやAIなどを活用した作業の効率化・省力化や、情報の高度化に関する新技術の活用が期待されている。

これらの社会情勢や大雪災害発生状況の変化にも対応し、常に、予算や人員等の制約条件を踏まえた最適な除雪体制とするため、「除排雪の効率化」および「市民広報の積極的な展開」に着目し、総合的な検証を継続すること。

3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

9/22

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

項 目	目 標	取組み	R3	R4	R5	R6	R7	備 考
1 除排雪作業の効率化								
(1)早期道路交通の確保								
効率的な作業の実施	機械の受持ち延長の適正化	毎年の稼働実績を活用し見直す	見直し (27台)	見直し (22台)	見直し (11台)	見直し (6台)	見直し (－)	R3～R7 66台の増台
	排雪作業の効率化	排雪基準を策定し、基準・優先順位に明確にする	基準策定	基準に基づく作業 →				
	雪捨て場の確保	毎年の排雪作業から増設箇所を抽出する	増設 (19箇所)	増設 (1箇所)	増設 (4箇所)	増設 (1箇所)	増設 (2箇所)	H29 23箇所 ⇒R7 136箇所 (113箇所増)
バス交通の確保	バス交通支障箇所の速やかな解消	バス事業者と連携し対応マニュアルを作成	－	策定	改訂	一部修正	一部修正 (予定)	毎年、連携会議を開催し、相互に検証を行う
新技術の活用	除雪作業の更なる効率化・高度化・省力化	新技術の活用について、試行・検証を実施	－	試行着手	試行継続	試行継続	試行継続	AIの精度向上により、さらなる効率化が可能となるかが課題
(2)地域ぐるみの除雪体制の構築								
地域が一体となった除雪体制	地域で実施する除雪作業に対する補助制度の拡充	アンケート等でニーズを把握し、制度見直しを検討	－	一部拡充	一部拡充	一部拡充	一部拡充	
(3)国・県との連携強化								
国・県・関係団体との応援体制強化	関係機関との応援体制や除雪協力体制の拡充	関係機関と応援体制について確認	実施	実施	実施	実施	実施	

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

①効率的な除排雪作業の実施

機械の受持ち延長の適正化

- ・ 除雪車運行管理システムに蓄積されているデータを活用し、異常降雪等を除いた標準的な降雪に対して、除雪作業の稼働時間が長時間となっている路線を抽出。
- ・ 回送距離や作業時間等を最適化することで、経済的に有利となる路線について、機械の増台を実施。

機械の増台状況(R3～) (単位:台)

	R3	R4	R5	R6	R7	計
国県道	3	－1	0	1	0	3
市 道	24	23	11	5	0	63
計	27	22	11	6	0	66

※上記台数には路線再編や新規供用に伴う増減も含む

今後の取組み

- ・ 引き続き、システムに蓄積されたデータを活用しながら、受け持ち延長の適正化を進めていく
- ・ 増台前(R5)と増台後(R6)の稼働時間を比較すると約10%縮減されたことがわかった。
引き続き、増台効果の検証を進めていく

雪捨て場の確保

- ・ 排雪作業の効率化や雪捨て場での車両の滞留を防ぐため、H30年度から雪捨て場の増設を実施

雪捨て場・雪置場の増設状況(H30～)

(単位:箇所)

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備 考
雪捨て場	20	20	24	27	26	26	25	25	
雪置場	51	57	85	101	103	107	109	111	
合 計	71	77	109	128	129	133	134	136	R6→R7:2箇所増

- ・ 公園や市有地など関係機関と調整し、新たに雪置き場の確保に努めた。

今後の取組み

- ・ 毎年の除雪対応において、課題箇所の抽出を行い、雪捨て場の確保を継続的に行う
- ・ コスト要因を把握し、排雪エリアから最適な雪捨て場の選定を行う

②新技術の活用について(AIスマホ路面判定システム)

- 降雪時は道路パトロールで状況把握を実施
- ・定量的な状況把握ができていない
(状況判断はパトロール員の経験や感覚)
- ・随時の状況把握ができていない



- ・作業指示にかかるオペレーションが非効率
(客観的な作業指示や情報発信が困難)
- ・パトロール体制の確保が必要



新技術を活用し状況把握の高度化、効率化、省力化に関する取り組み・検証を継続(R7)

R6実績(全8区)→R7(継続)

【移動観測】

AIスマホ路面判定システム 20台→**20台**
 道路パト車(直営) 16台
 除雪パト車(委託) 1台
 凍結防止剤散布車 3台

※自主出動する除雪協力業者の車両にも配備

AI路面判定状況



AIスマホ設置状況



凡 例

乾燥	—
濡れ	—
水たまり	—
冠水	—
薄雪	—
湿雪1~3cm	—
湿雪3~5cm	—
湿雪5~10cm	—
湿雪10cm以上	—
凍結	—
乾雪1~3cm	—
乾雪3~5cm	—
乾雪5~10cm	—
乾雪10cm以上	—
圧雪	—
判定対象外	—

倒木・倒竹状況



No.1



No.2

試行による効果

- ・状況判断をパト員の感覚的なものに依存していたが、画像でリアルタイムに情報共有ができるため、状況把握にかかる時間短縮効果大きい。
- ・画像データに基づき、具体的な作業指示が可能となり、作業の手戻りを防ぐことが可能。⇒ 特に夜間対応時の人員が少ない状況下においては、業務の効率化・省力化に大きく寄与し、総合的に市民サービスの向上に貢献している。

※直営or外注などの確な作業判断が可能となった
 No.1は外注、No.2は直営と判断

②新技術の活用について(カメラ付き簡易積雪深計)

○管理区域が広く、エリアによって降雪状況が異なるため、除雪出動判断にかかるパトロール等による情報収集が困難

新技術を活用し状況把握の高度化、効率化、省力化に関する取り組み・検証を継続(R7)

- ・状況把握に時間を要する
- ・苦情対応等と重なる場合、人員が確保できない
- ・作業指示までに時間がかかると、除雪協力業者の待機時間増、除雪完了時間に遅延発生

R6実績(全8区)→R7(拡充)

【定点観測】

カメラ付き簡易積雪深計 12台→**24台程度**
 { 除雪出動判断用 10台
 バス通行支障確認用 2台

※R7 定点カメラのみに変更

観測システム画面



設置状況



ソーラーバッテリー



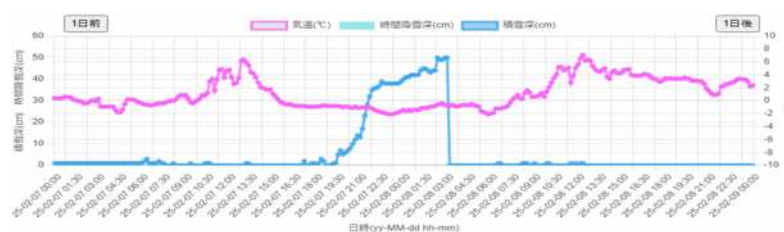
定点カメラ

北区バス通行状況



積雪深計(センサー)

積雪深・気温観測データ



定点観測(カメラ付き簡易積雪深計)

【概要】

- ①積雪量、気温、画像を記録。
- ②バッテリーで稼働させるため、比較的容易に設置可能。
- ③カメラ及び積雪深計の観測頻度は1回/10分程度。

R6.12.31(平常時)

R7.1.10(小雪時)

R7.2.8(大雪時)

観測状況



【精度検証等】

- ・測定位置によっては、除雪後のかき分けられた雪が路肩に堆雪し、正しい数値が測定できない場合が多々あったが、精度は比較的高いことがわかった。

積雪深精度確認

日付	設置箇所	実測	センサー	差
1/9	No.2	6cm	5cm	+1cm
1/9	No.4	13cm	10cm	+3cm
2/5	No.2	2cm	2cm	±0cm
2/5	No.4	3cm	3cm	±0cm
2/6	No.12	16cm	10cm	-6cm

今年度の取り組み

- ・積雪センサーの数値よりもカメラ画像からの情報を重視したいため、今年度は**定点カメラのみ**をある程度のエリアを網羅できるように設置し、効果を検証する。

試行による効果


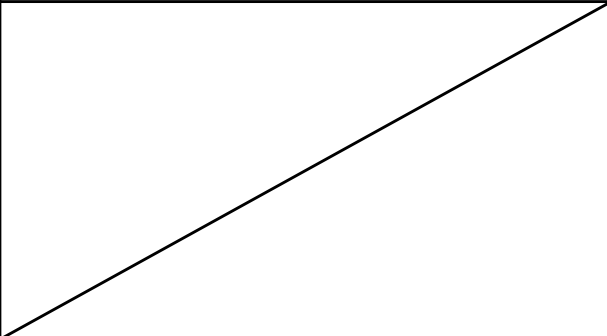



- ・リアルタイムで状況把握ができるため、設置周辺エリアの直営パトロールを**省くことによる時間短縮効果(30分程度)**が大きい。
- ・設置エリアを広げ、業者にも情報共有を図り、業者パトロールの省力化(※人員不足が課題)につなげることにより、**コスト削減**が図れるか検討が必要。

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

③その他の取り組み

【凍結防止剤散布効果の検証】

・路面に圧雪や積雪がある状態での散布によって、路面状態の悪化につながっているのではとの問題提起を受け、散布する箇所と散布しない箇所を比較し、路面状態の変化を検証。(中央区・西区の2箇所で観測)

R7.1.10(散布3:50)		R7.1.10(調査8:00) 0℃、積雪5cm		R7.1.10(調査11:00) 1℃、積雪4cm	
散布路線					
非散布路線		 			

【検証結果】

・今回の検証では、降雪状況により、様々な路面状態での観測ができなかったが、散布による路面状態の悪化は見受けられず、散布による路面の凍結防止効果の確認はすることができた。引き続き、検証を進めていく予定。



○除雪作業との連携強化

・現状として除雪と散布出動基準が異なることにより、各々が基準に達したら出動しているため、作業の重複が生じる可能性がある。このため、除雪作業と散布作業の連絡体制を構築し、除雪出動時間や完了時間などを調整し、連携強化を図りたい。今年度は、除雪と散布担当路線が同一の業者や幹線道路など連携が可能な路線から試行的に実施していく方針。

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

③その他の取り組み

【ワンオペ除雪の検討】

- ・除雪オペレーター担い手不足に対応するための「ワンオペ除雪」への対応
(一部の除雪機械は従来の2人乗りから1人乗りへ)
- ・ワンオペ対応へのニーズの把握及び除雪機械の安全装置設置(バックモニタ、センサーなど)に関しての費用など課題があるが、既に試行を実施している新潟県を参考にしながら検討中



**予算や人員等の制約条件を踏まえた最適な除雪体制の構築に向けて
課題の抽出と取り組みを進める**

3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

16/22

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

項 目	目 標	取組み	R3	R4	R5	R6	R7	備 考
2 市民広報の積極的な推進								
(1)大雪は災害であることの理解浸透								
市民に災害意識の向上	降雪期前:大雪は災害であることの理解促進	・各種媒体を活用し 広報活動を実施 (パンフレット、ポスター、 HP、テレビなど)	実施					パンフレットの 一部改訂
	降雪期:日頃から、大雪 への備えや、最新情報 を確認することを促す	・HPに雪の特集ページ ・降雪が予想される場 合は、SNSで情報発信	一部 試行	試行				
(2)大雪時の行動変容を 促す								
市民の行動変容を促す	指標レベルを設定し、 そのレベルに応じた 情報発信を行う	・指標レベルの設定や、 それに応じた広報に ついて試行・検証を 実施	一部 試行	試行				
(3)除雪体制の市民周知								
	除雪体制の市民周知	・新潟市の除雪体制に ついて、パンフレットに より周知する	実施					
	市民の不安解消	・除雪の進捗状況に ついてHP上で公開	一部 実施	実施				

新しいパンフレット「にいがた雪の日辞典2024年度版」作成・全戸配布

→ 一部
拡充

→ 実施

→ 実施

→ 実施

→ 実施

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

新潟市除雪体制等検証会議 (R3～R4)

提言の3本柱

- 1 除排雪の効率化
- 2 市民広報の積極的な展開
- 3 PDCAサイクルの構築



大雪は災害であることの理解・浸透

- ・大雪時は、道路交通確保に時間がかかることや、交通渋滞・公共交通の運休等が発生することを広報すること
- ・さまざまな手法を通じて市民の災害意識の向上を促すこと

大雪時の行動変容を促す

- ・外出自粛に繋げる市民広報を行い、行動変容を促すこと
- ・大雪に対する対応力のレベルにあった除排雪や市民への行動変容が可能となるよう試行・検証を実施すること。

除雪体制の市民周知

- ・新潟市の除雪体制について、パンフレットやリーフレットにより十分周知するよう努めること。
- ・大雪時には、市民の不安解消に向け、各種メディアを活用し継続的な除雪状況などの情報発信を行うこと。

降雪期前

広報内容

- ・大雪は災害であることの理解・浸透
- ・除雪体制の市民周知

除雪方法、協力をお願い、お役立ち情報など

⇒各種媒体による広報活動

パンフレットやポスター掲示、市報、テレビ、HP

⇒イベント開催などによる意識啓発

Jリーグ開催にあわせたイベント、道の日イベントなど



平常時

広報内容

- ・日頃から大雪への備え
- ・最新情報の確認

⇒HP内に情報を集約した特集ページを設置

掲載情報は、気象情報、除雪状況、公共交通、ライフライン、ゴミ収集、高齢者支援など

○除雪状況の公開ページ(新潟市HP)



降雪期

広報内容

- ・気象予測や降雪状況に応じたレベル毎に広報を実施

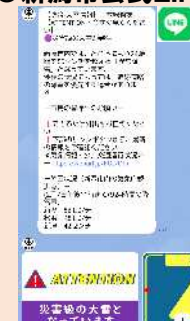
平常時の内容に加えて「不要不急の外出抑制」や「異常降雪時対応への移行と市民への協力のお願い」など

⇒SNSやHPで情報発信

市公式ライン、防災メール、

X(旧Twitter)など

○新潟市公式LINE



(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

「にいがた雪の日辞典」 関係部局の意見を踏まえて改訂・全戸配布(R6)

主な拡充内容

- P 6 冬道の安全走行
- P13 凍結防止剤の散布
- P15～16 異常降雪時の出控えのお願いと情報発信
- P18 電線類の垂れ下がり対応



広く活用してもらえるよう関係部局の意見を踏まえて改訂(R7)

- ① 年度別降雪量・・・令和6年度(152cm)を追加
- ② 自助(車・備蓄)・・・新潟市災害備蓄(HP)へのQRコード追加
- ③ 大雪(情報)・・・新潟県防災ナビ(アプリ)へのQRコード追加
災害(異常降雪)についての大雪のレベルに
応じて発信する警戒情報を修正

〇にいがた雪の日辞典



- ・「にいがた雪の日辞典2025年度版」をホームページで公開し、周知を図る(※全戸配布なし)
- ・市内各所へポスターを掲示
- ・大雪の行動変容について、様々なメディアを通して広報活動を実施

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

①「にいがた雪の日辞典」の改訂・配布(R6)

広報の効果

【各区建設課より】

- ・市の除雪への取り組みについて、徐々に浸透してきていると感じる。
- ・自治会長、町内会長向けに「にいがた雪の日辞典」を用いて除雪説明会を実施しているが、一定の理解を得ていると感じる。
- ・除雪への取り組みや降雪への備えなどに対する市民理解が浸透してきていると感じる。

【情報掲載関係部署・団体より】

- ・「にいがた雪の日辞典」はわかりやすい内容となっており、同資料を活用した広報啓発活動の推進と防災意識浸透に期待したい。

※令和6年度は、小学生を対象に「にいがた雪の日辞典」を用いて出前授業を開催

課題等

【各区建設課より】

- ・今後も市の「除雪」のPR強化がまだまだ必要と感じる。
- ・異常降雪及びかき分け除雪の発信を引き続き広報してほしい。

【情報掲載関係部署・団体より】

- ・家の敷地内の雪を道路に出して、車に潰させることはやめようということを周知できないか。

- ・今後も効果のあった項目を継続し、課題に対応するよう更新していく予定
- ・今年度は、小中学生を対象に出前授業を開催予定

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

②大雪時の行動変容を促すための広報について

検証会議の提言（概要）

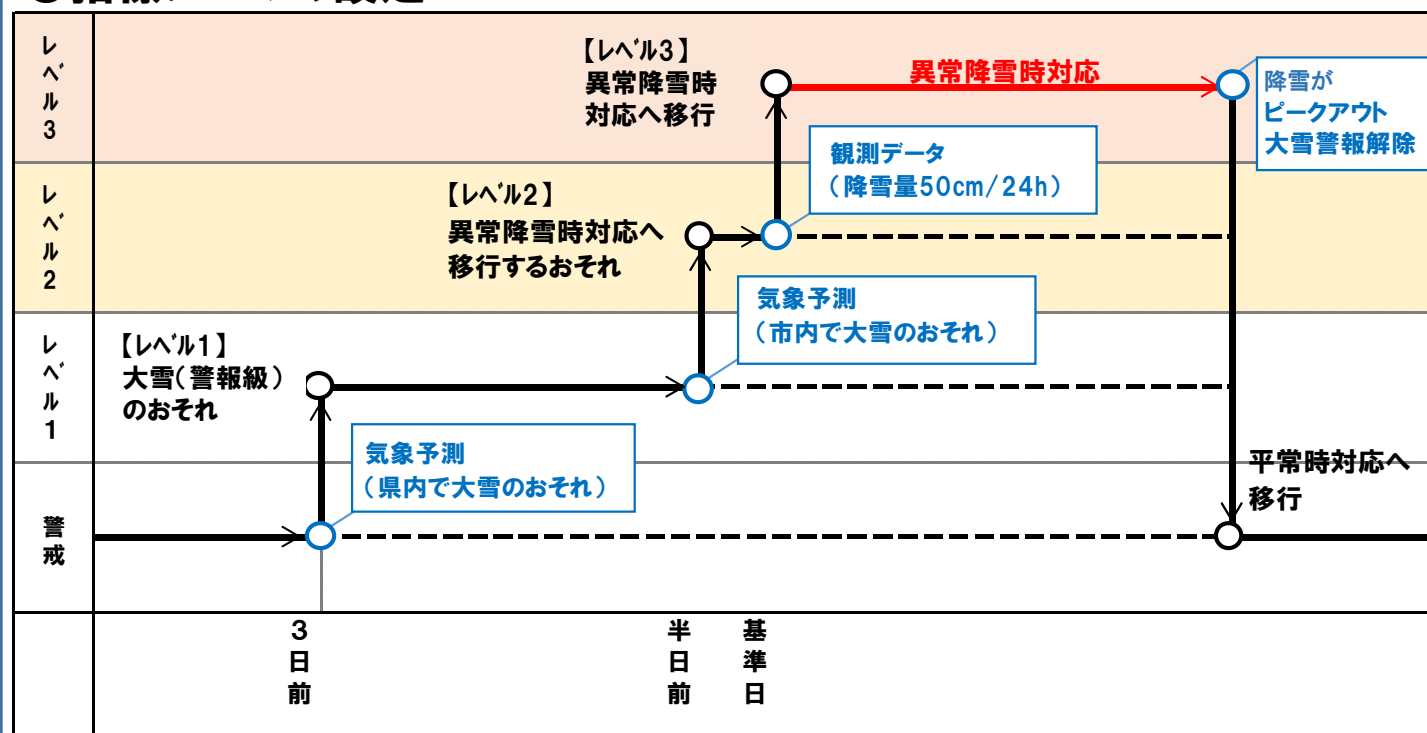
- ・外出自粛に繋げる市民広報を行い、行動変容を促すこと
- ・大雪に対する対応力のレベルにあった除排雪や市民への行動変容が可能となるよう試行・検証を実施すること。

【R4から実施の内容】

- ・指標の設定(レベル1～レベル3)
- ・レベル毎にSNSで行う広報のひな形を作成

HP、市公式LINE、防災メール、X(旧Twitter)で情報を発信

○指標レベルの設定



・大雪となる数日前に国から
発出される大雪に関する
情報にあわせてタイムライン
を作成

・レベル1とレベル2への移行
は気象予測による

・レベル3への移行は、除雪
体制が異常降雪時対応に
移行するタイミングとした

※ 異常降雪時対応:50cm以上/24h以上の降雪時に幹線道路を優先的に確保する体制に移行

令和5年度は12月(レベル3)の広報を実施

令和6年度は 2月(レベル3)の広報を実施

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

令和6年度実施時の課題と対応

【各区役所建設課より】

- ・市民への市の除雪方法や除雪出動基準などの周知徹底が必要

→パンフレットの全戸配布やHP等の広報により、かき分け除雪への理解が浸透しつつあり、一定の効果が得られているのではと感じる

※さらなる取り組み…異常降雪時の市民の行動変容に向けて

異常降雪時の出控えの浸透に向けた協議等

○庁内の取り組み

大雪に伴うテレワークの推進

○学校等の対応(異常降雪時の休校等)

教育委員会等と意見交換

小中学校は義務教育であること、休校時の児童生徒の居場所の確保が課題

高等学校について意見交換を進めていく

○企業等

関連団体を通じて出控え等の課題の投げかけを検討

※関連…雪のBCP



リモート学習、リモートワークの事前準備として的大雪情報(市公式LINE)の活用

4 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の今後について

22/22

(1)令和8年度以降の進め方について(案)

○オブザーバー会議のスケジュール

予 定	内 容
◇令和8年春 オブザーバー意見照会 6月頃	・令和7年度除雪対応についての意見照会(書面) (事務局でとりまとめて構成員に共有)
○令和8年秋 第1回オブザーバー会議 11月頃	・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて 策定した道路除雪計画について意見照会
◇令和9年春 オブザーバー意見照会 6月頃	・令和8年度除雪対応についての意見照会(書面) (事務局でとりまとめて構成員に共有)
○令和9年秋 第2回オブザーバー会議 11月頃	・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて 策定した道路除雪計画について意見照会
◇令和10年春 オブザーバー意見照会 6月頃	・令和9年度除雪対応についての意見照会(書面) (事務局でとりまとめて構成員に共有)
○令和10年秋 第3回オブザーバー会議 11月頃	・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて 策定した道路除雪計画について意見照会 ・令和11年度以降の進め方について